

## 現場説明書(技術的事項)

工事名 福山港内港地区北倉庫解体工事

---

### 1. 現場の状況

施設は現在使用していません。

### 2. 留意事項

- ① 工事期間中は、第三者の安全に細心の対策を講じてください。
- ② 契約後、実施工程表は14日以内に提出するとともに、施工計画書等の承諾は速やかに受けてください。
- ③ 工事施工に必要な官公署への手続きは、受注者の責任において速やかに行ってください。
- ④ 解体建物は敷地境界に近接していますので、仮設計画及び解体手順については、十分配慮して計画してください。
- ⑤ 敷地境界に近接した解体撤去作業時は、前面道路や隣地に影響を与えないよう対策を講じてください。なお損傷を与えた場合には、監督員及び施設管理者と協議のうえ、速やかに復旧してください。
- ⑥ 解体建物の北側遊歩道及び南側隣地は、敷地内通路を含め県有地です。工事場所への進入は、原則、東側市道より行ってください。
- ⑦ 本工事には、騒音・振動計の設置・計測(2.5ヶ月・1台)が含まれています。  
工事に先立ち、2週間程度の間、解体場所周囲の常時の騒音・振動を計測し、その計測値を参考に、工事管理を行ってください。
- ⑧ 解体作業にあたっては、振動軽減のため、原則、手作業で行ってください。
- ⑨ 重機による振動には十分注意し、移動の際は最徐行を行う等対策を講じてください。
- ⑩ 工事用出入口から前面道路へ泥を持ち出すことのないよう十分留意してください。また、汚した場合速やかに清掃を行ってください。
- ⑪ 解体作業中は散水を十分行い、粉塵対策を講じてください。
- ⑫ 受注者は、解体工事前に法令に基づく石綿(アスベスト)の使用の有無の調査(事前調査)を行ってください。
- ⑬ 本工事は、建設リサイクル法対象工事に該当します。特定建設資材の再資源化に努めるとともに、産業廃棄物においても適切に処理してください。
- ⑭ 墜落制止用器具の着用について  
労働安全衛生法施行令第13条第3項第28号における墜落制止用器具の着用は、「墜落制止用器具の規格」(平成31年1月25日厚生労働省告示第11号)による墜落制止用器具(フルハーネス型墜落制止用器具、胴ベルト型墜落制止用器具及びランヤード等)とする。
- ⑮ 法定外の労災保険の付保について  
本工事は、法定外の労災保険を見込んでいます。

### 3. 工事における「第20回世界バラ会議福山大会2025」ロゴの標示について

「第20回世界バラ会議福山大会2025」が2025年5月18日から24日にかけて開催されます。については、周知と機運醸成を図るため、工事現場に掲げる標識として、大会ロゴの標示のご協力をお願いします。

○使用するロゴは「第20回世界バラ会議福山大会2025 ロゴ利用規程」に沿った指定のデザインとしてください。

○「第20回世界バラ会議福山大会2025 ロゴ利用規程」に定められた「大会ロゴ利用許諾申請書」の提出は不要です。

○使用する大会ロゴは「大会ロゴデザインガイド」にて配色等が定められているので留意してください。

○大会ロゴの標示については任意事項とし、標示する際は、発注課へ必ず連絡してください。

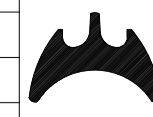
○ロゴ標示期限は2026年（令和8年）3月31日です。

○デザインデータについては福山市建設管理部技術検査課へ問い合わせてください。

# 福山港内港地区北倉庫解体工事

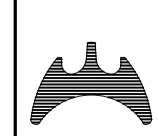
図 面 リ ス ト	
図面番号	図 名
0	図面リスト
1	解体工事特記仕様書（1）
2	解体工事特記仕様書（2）
3	解体平面図
4	解体跡整地計画図
5	平面図・基礎伏図 内部仕上表
6	立面図 外部仕上表 建具表
7	小屋伏図・軸組図
8	矩計図
9	防火鉄扉廻り詳細図
10	トラス詳細図
11	基礎地中梁配筋図 本柱・間柱柱脚部詳細図 スラブ配筋表

福山市建設局建築部営繕課				2024年 2月	
主務	課員	次長	課長補佐	常務課長	建築部長

		福山市建設局建築部営繕課	工事名称 福山港内港地区北倉庫解体工事	図面No 00
		2024年 2月	図面名称 図面リスト	A1版 100% A3版 50%
			編尺 —	

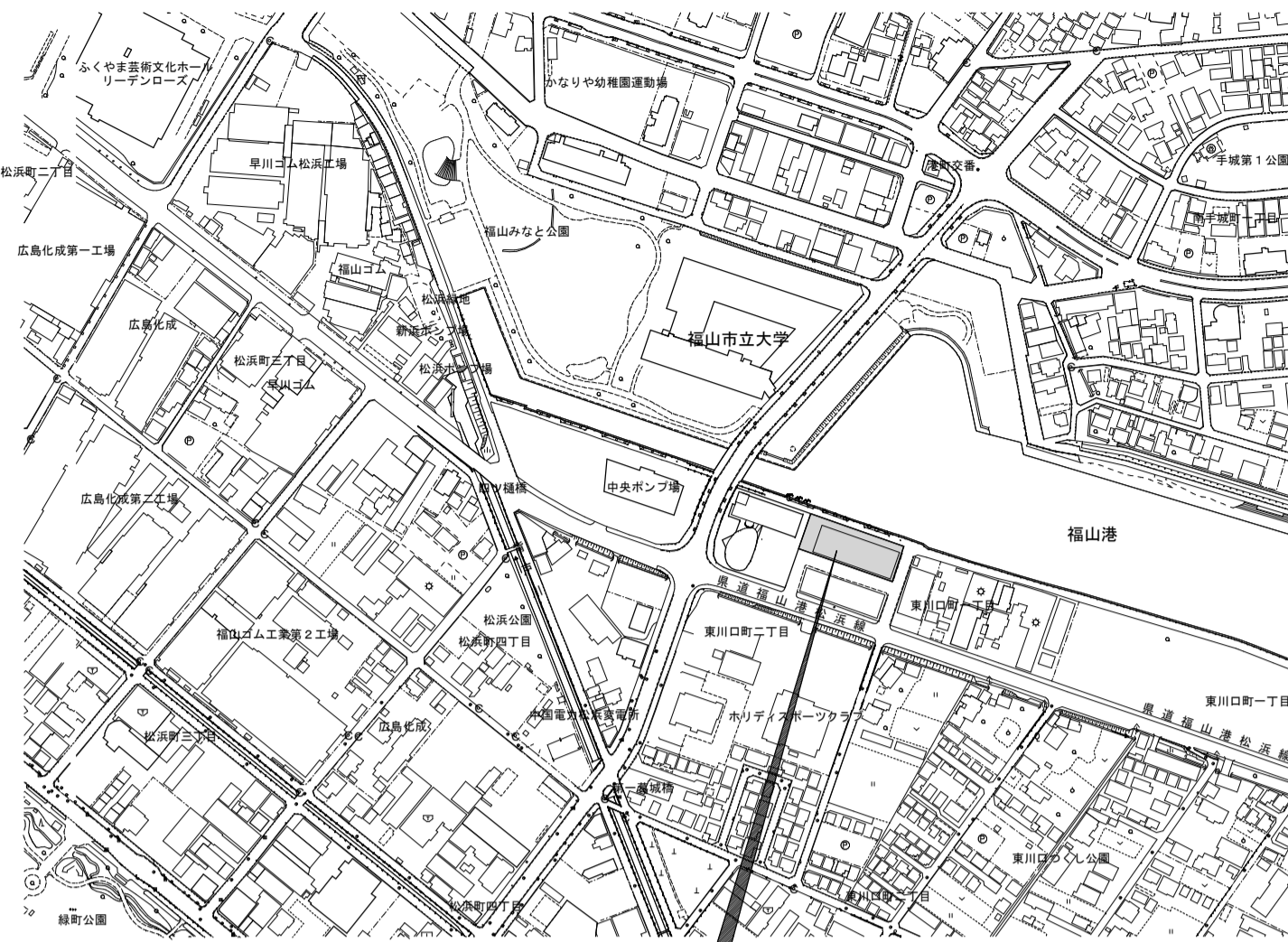


章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項								
⑤	石綿含有建材の除去及び処理	<p>⑤除去物の処理 ※ 密封処理（二重袋梱包） ・ セメント固化</p> <p>3) 除去工法 ※ 図面による ・ 共通仕様書による 施工場所（ ）</p> <p>4) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等 ①除去した石綿含有吹き付け材等を搬出するまでの間、現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、シートで覆う等飛散防止措置を講ずる。また、石綿等の保管場所であることの表示を行う。当該工事により発生する石綿を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。 処分場所（ ） 運搬距離（ ） 受入条件（※平日受入） ※ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設） なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。</p> <p>②石綿を廃棄物として排出した時は、その都度、排出量と処理先を監督員に報告するとともに、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写しを添付した廃棄物処理報告書を提出する。</p> <p>5) 確認及び後片付け ①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。確認の後に、除去面に粉じん飛散防止処理剤等を散布する。 ②養生用のプラスチックシートの撤去に先立ち、高性能真空掃除機で養生面、床等の清掃を行う。 ③養生用のプラスチックシートに付着した粉じんの再飛散を防止するために、シート全面に粉じん飛散抑制剤を散布する。 ④壁面等の養生用のプラスチックシートの撤去は、集じん・排気装置で十分に吸引・ろ過し、原則として、隔離空間内部の空気中の総繊維数濃度を測定して、石綿等の粉じんが処理されたことを確認した後に行う。なお、シートは、取り外して粉じん付着面を内側に折りたたみ、プラスチック袋に入れる。 ⑤養生を行っていない足場、仮設材を清掃した後解体搬出する。 ⑥床養生用のプラスチックシートは、粉じん付着面を内側に折りたたみ、プラスチック袋に入れる。 ⑦養生用のプラスチックシート等の廃棄物は、4 2) ⑤により処理等を行う。 ⑧後片付け終了後は、高性能真空掃除機で床等の清掃をする。</p>	⑤		<p>化した状態で作業を行う。なお、湿潤化が著しく困難な場合は、除じん性能を有する電動工具を使用するなど粉じんの飛散を防止する。</p> <p>③除去した石綿含有仕上塗材の廃棄物は、耐水性のプラスチック袋等により二重でこん包する。</p> <p>4) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等 6 4) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等による。 処分先については、監督員の指示による。 ・ 埋立処分（ ・ 安定型最終処分場 ・ 管理型最終処分場 ） ・ 中間処理（ 溶融施設又は無害化処理施設 ） なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。</p> <p>5) 確認及び後片付け ①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。 ②養生シート等の撤去にあたっては、シート等を十分清掃する。</p>														
5	石綿含有保温材等の除去 (6.4.1~6.4.4)	<p>1) 処理を行う石綿含有保温材等の仕様及び部位 ・ 下記による ※ 図面による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>石綿含有保温材等の仕様</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> </tbody> </table> <p>2) 養生等 ①石綿含有保温材等の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて隔離養生（負圧不要）を行う。 ②作業場の隔離（ ・ 行う ※ 行わない） 石綿含有保温材等の除去にあたり、掻き落とし・破碎・切断による方法の場合は、作業場の隔離を行うこと。 3) 作業場の隔離を行う場合は、4 2) を適用する。 除去工法 ※ 粉じん飛散抑制剤により湿潤化した後に手ばらし ・ 石綿含有吹き付け材の除去による除去物の処理（※ 密封処理（二重袋梱包） ・ セメント固化）</p> <p>4) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等 4 4) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等による。</p> <p>5) 確認及び後片付け ①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。確認の後に、除去面に粉じん飛散防止処理剤等を散布する。 ③養生シート等の撤去にあたっては、シート等を十分に清掃する。また、石綿の付着が考えられる場合には、必要に応じて粉じん飛散抑制剤又は粉じん飛散処理剤を散布する。</p>	石綿含有保温材等の仕様	使用部位	・	・	・	・	・	・	・	・							
石綿含有保温材等の仕様	使用部位																		
・	・																		
・	・																		
・	・																		
・	・																		
6	石綿含有成形板等の除去 (6.5.1~6.5.4)	<p>1) 処理を行う石綿含有成形板等の仕様及び部位 ・ 下記による ※ 図面による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>石綿含有成形板等の仕様</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 石綿スレート</td> <td>・ 外壁・屋根・庇屋根</td> </tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> </tbody> </table> <p>2) 養生等 石綿含有成形板等の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて作業場所の周辺の養生を行う。</p> <p>3) 除去工法 ①原則、手ばらしで行う。やむを得ず切断、破壊等しなければならない場合は、常時湿潤化した状態で作業を行う。ただし、石綿を含有するけい酸カルシウム板第一種は、養生シート等で作業場所の隔離養生（負圧不要）を行う。 ②除去した石綿含有成形板等の集積及び積込みに当たっては、高所より落下しないこと、粉じんの飛散防止に努める。 ③破碎された石綿含有成形板等は、湿潤化のうえ、丈夫なプラスチック袋に入れる等飛散防止の措置を講ずる。</p> <p>4) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等 ①処分は原形のままとし、処分先は監督員の指示による。 ・ 石綿含有石こうボード ※ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板等 ・ 埋立処分（安定型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設） なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。 ②除去した石綿含有成形板等を現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の廃棄物とを分別して保管するものとし、シートで覆う等飛散防止措置を講ずる。また、保管場所には、石綿等の保管場所であることの表示を行う。 ③石綿含有成形板等の運搬に当たっては、運搬車輛の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。</p> <p>5) 確認及び後片付け ①関係法令等に基づき、石綿等に関する知識を有する者等により、除去が完了したことを確認する。 ②養生シート等の撤去にあたっては、シート等を十分清掃する。</p>	石綿含有成形板等の仕様	使用部位	・ 石綿スレート	・ 外壁・屋根・庇屋根	・	・	・	・	・	・							
石綿含有成形板等の仕様	使用部位																		
・ 石綿スレート	・ 外壁・屋根・庇屋根																		
・	・																		
・	・																		
・	・																		
7	石綿含有仕上塗材（下地調整塗材含む）の除去	<p>1) 処理を行う石綿含有仕上塗材（下地調整塗材含む）の仕様及び部位 ・ 下記による ※ 図面による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>石綿含有仕上塗材の仕様</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> </tbody> </table> <p>2) 養生等 電気グラインダー等の電動工具により除去を行う場合は、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて隔離養生（負圧不要）を行う。</p> <p>3) 除去工法（ 施工場所： ※ 図示 ） ①石綿含有仕上塗材の除去は、高圧水洗法や剥離剤を用いる工法等により、湿潤化した状態で行う。 ②電気グラインダー等の電動工具により除去を行う場合は、除去する石綿含有仕上塗材を常時湿潤</p>	石綿含有仕上塗材の仕様	使用部位	・	・	・	・	・	・	・	・							
石綿含有仕上塗材の仕様	使用部位																		
・	・																		
・	・																		
・	・																		
・	・																		



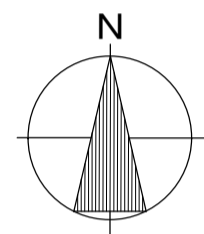
福山市建設局建築部営繕課  
設計 2024年 2月

工事名称 福山港内港地区北倉庫解体工事  
図面名称 解体工事特記仕様書（2）  
縮尺



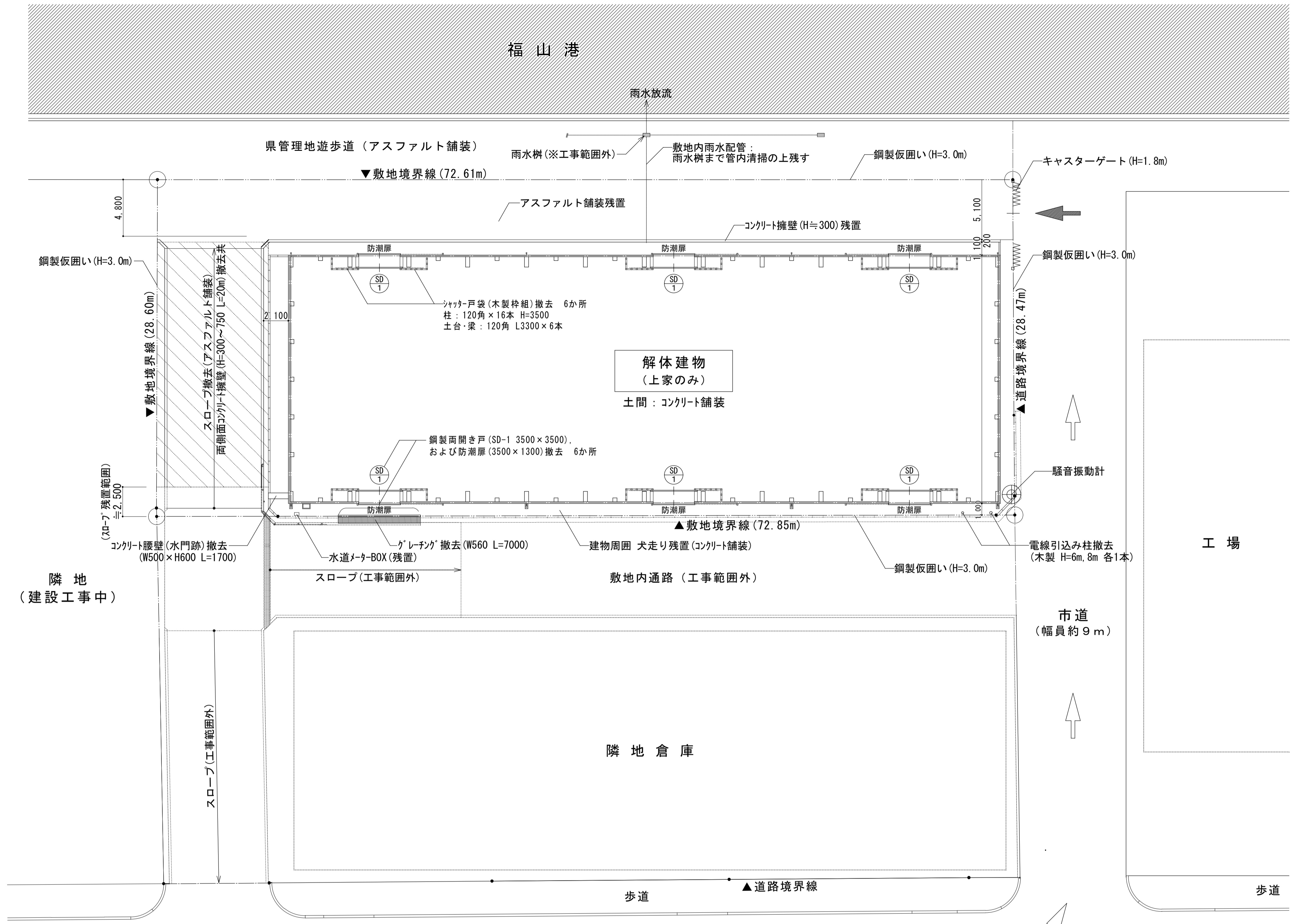
工事場所  
東川口町一丁目114番6外

付近見取図 S=1/5000

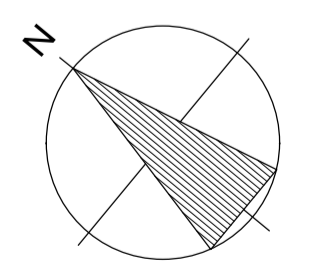


凡例

	工事車両進入口
	工事車両経路
	キャスターゲート W6.0m×H1.8m
	仮囲い(成形鋼板) H=3.0m
	騒音振動計設置(1箇所)



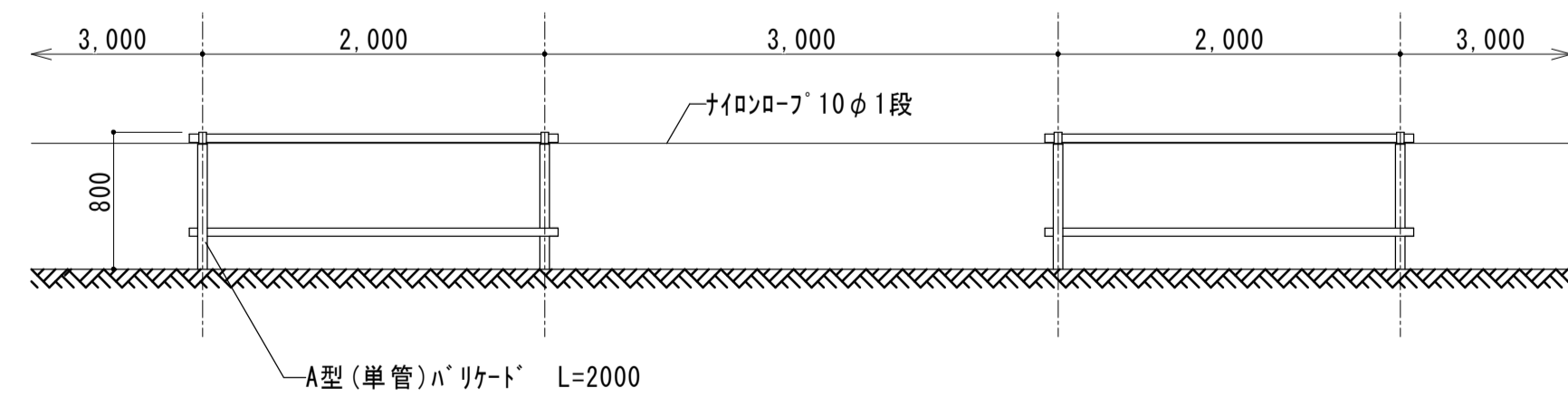
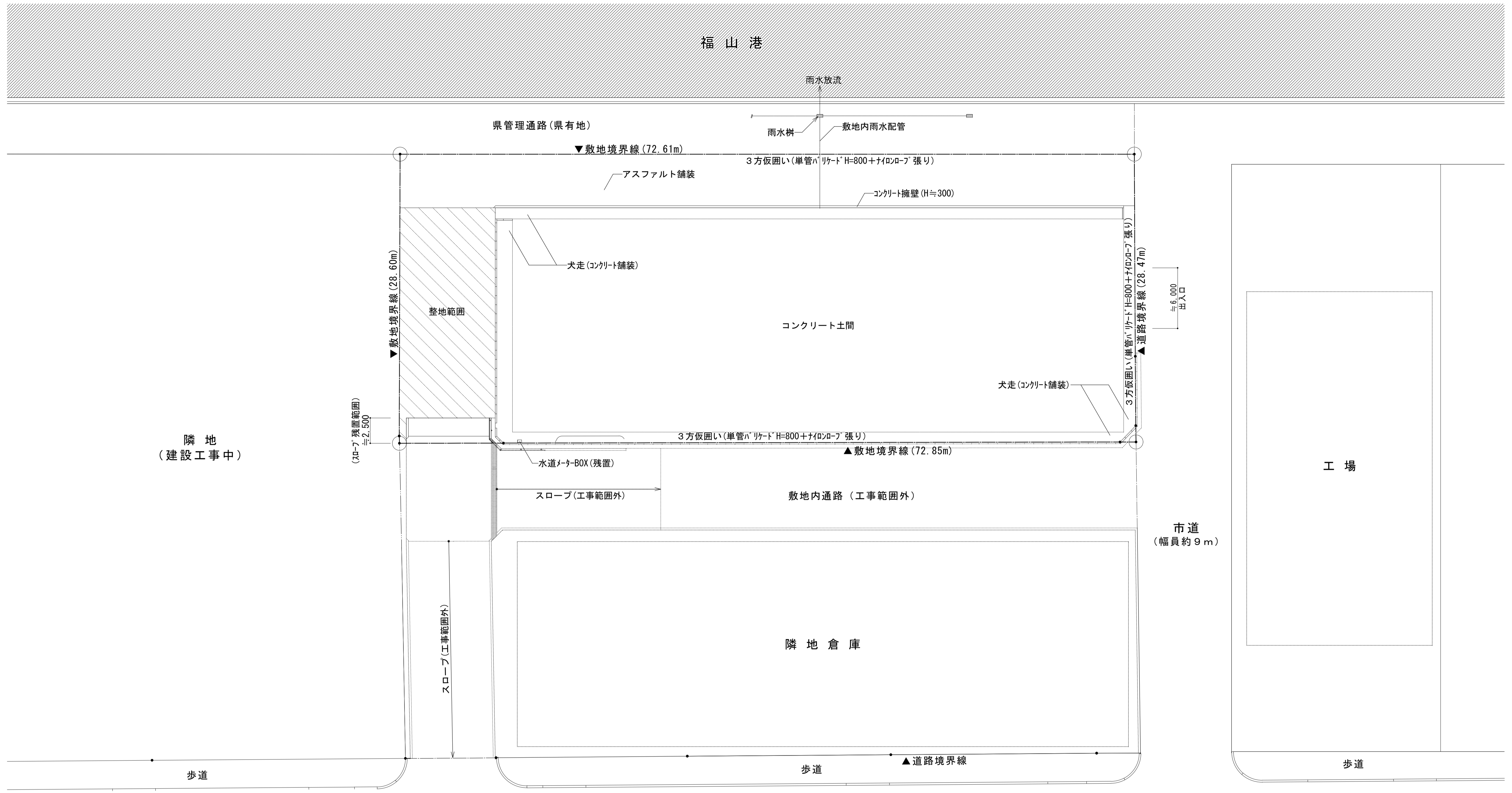
解体平面図 S=1/200



特記事項

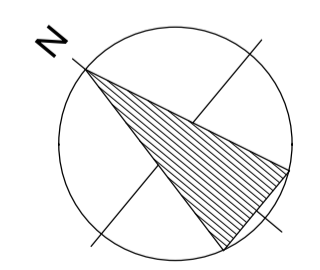
1. 工事に先立ち騒音振動計を設置し、解体場所周辺の常時の騒音・振動状況を計測する。(2週間程度)
2. 建物の解体範囲は、上家部分(コンクリート腰壁共)のみとし、原則、手ばらしで作業を行う。
3. 外構の解体範囲は、西側R=7の斜線部、および図示の工作物までとし、土間から下の部分は原則、残置とする。

福山港



仮囲い参考図 S=1/40

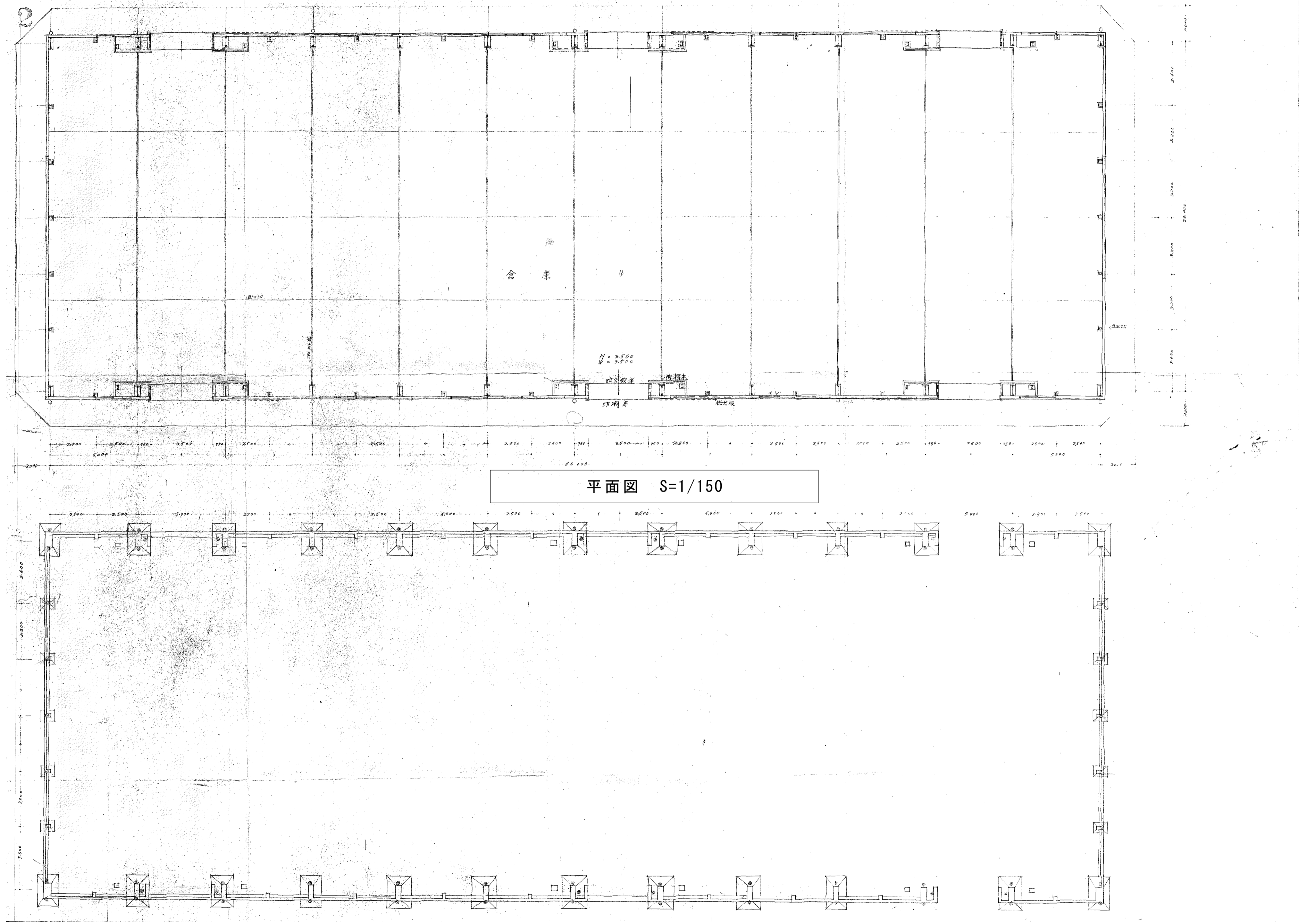
配置平面図 (解体後) S=1/200



	仮囲い(単管パイプH=800 + ナイロンロープ張り)
	解体後整地範囲(砕石敷き均し 厚100m程度)

- 特記事項**
1. 工事で掘り返したり、荒れた部分は整地範囲に含める。
  2. 解体工事後に埋め戻しが生じる部分は、水締め等により充分に締固めること。
  3. 整地が必要な部分については、地盤の不陸を修正のうえ、現況土間高さ程度まで砕石を敷き均し転圧すること。
  4. 敷地東側の仮囲いに、間口6.0m程度の間隔を設け出入口とし、ナイロンロープを着脱可能にする。
  5. 既設取合のある配管は切断の上フランジ止めをする。

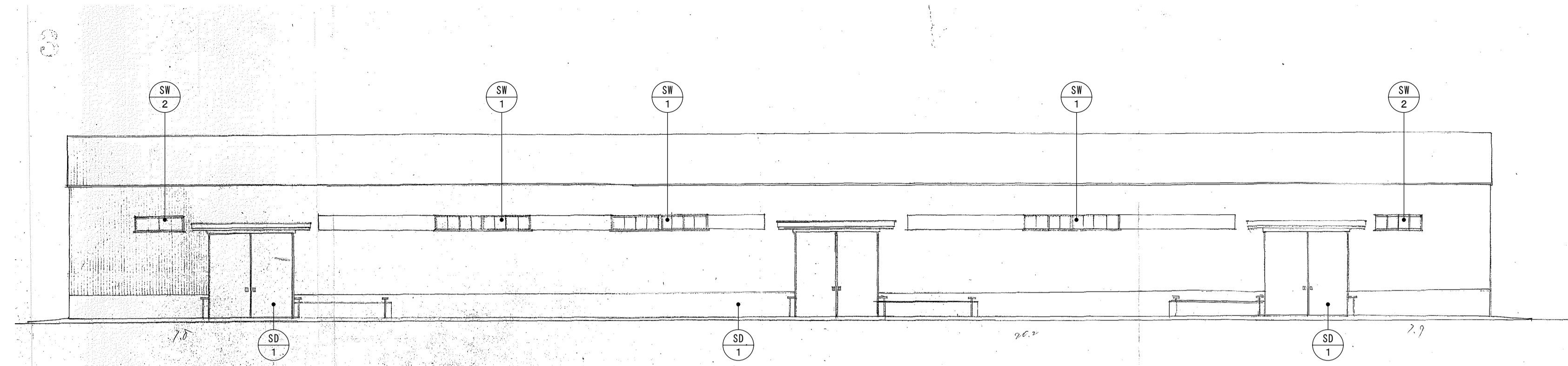
内部仕上表			
天井	大波スレート張り 現し (※アスベスト含有成形板として処分) 一部 ガラス繊維強化ポリエステル (7)1.2 (大波)	備考	・建物の解体範囲は、上家のみ (1階土間から上) とする
壁	小波スレート張り 表し (※アスベスト含有成形板として処分) 一部 ガラス繊維強化ポリエステル (7)1.0 (小波)		
暖 壁	モルタル金コテ押え		
床	コンクリート金コテ押え (目地切)		



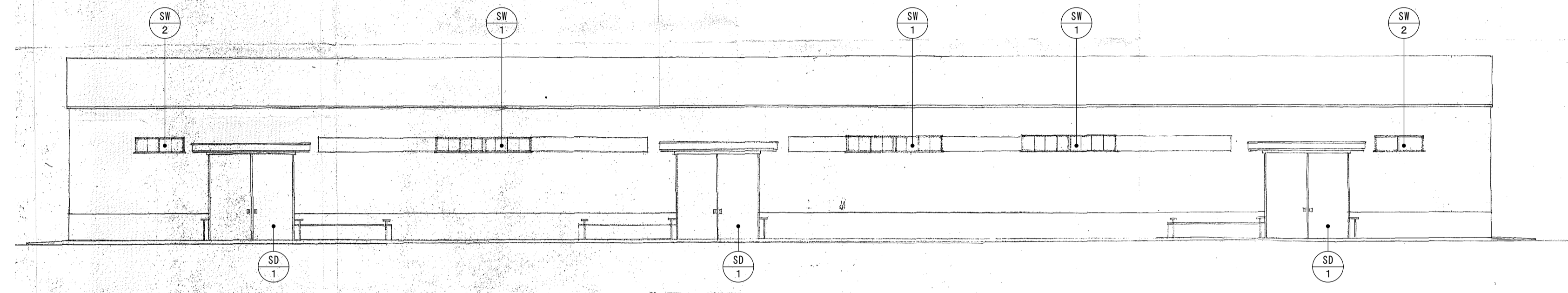
平面図 S=1/150

基礎伏図 S=1/150

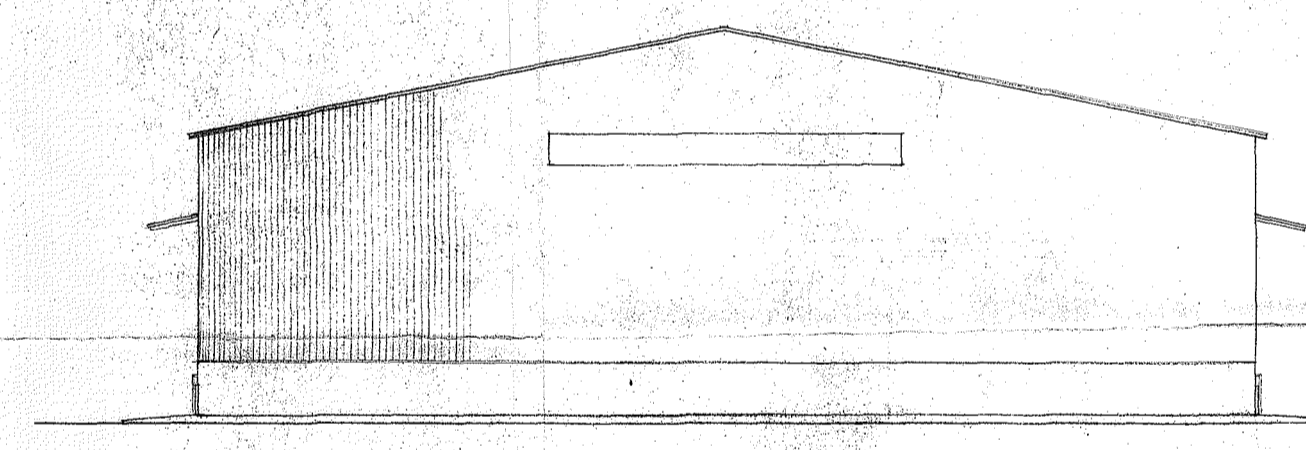




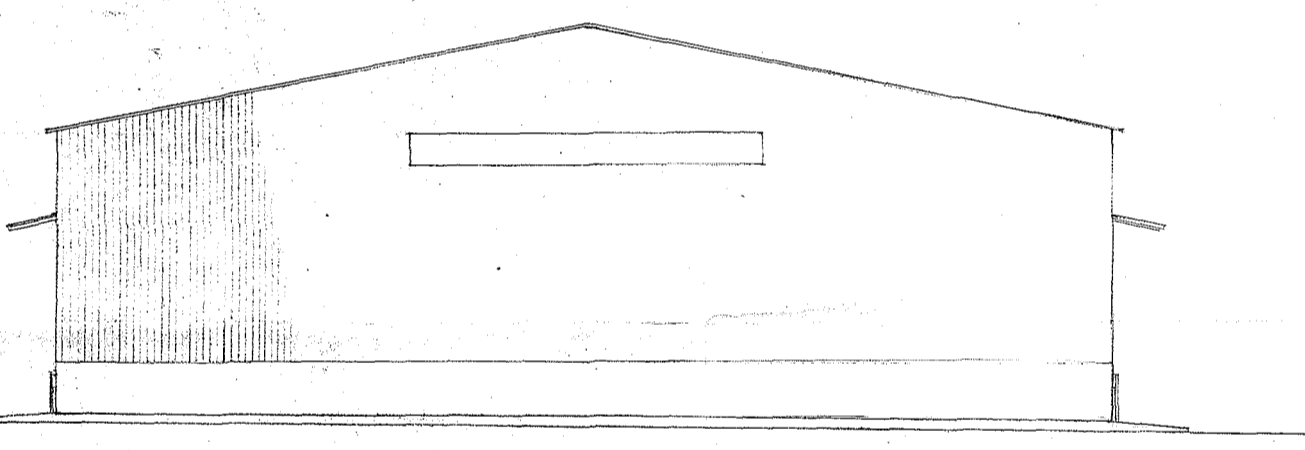
立面図(南面) S=1/150



立面図(北面) S=1/150



立面図(東面) S=1/150

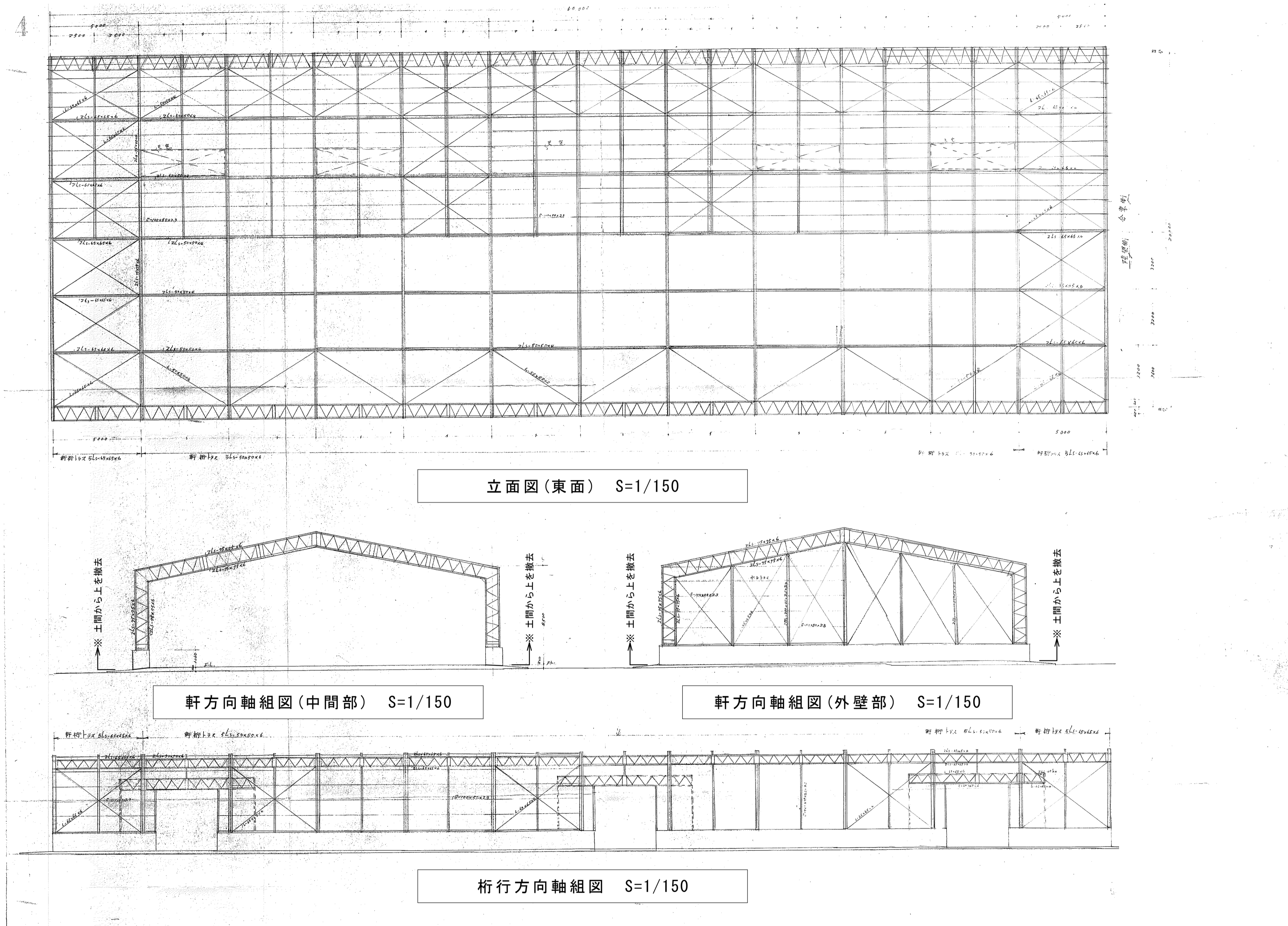


立面図(西面) S=1/150

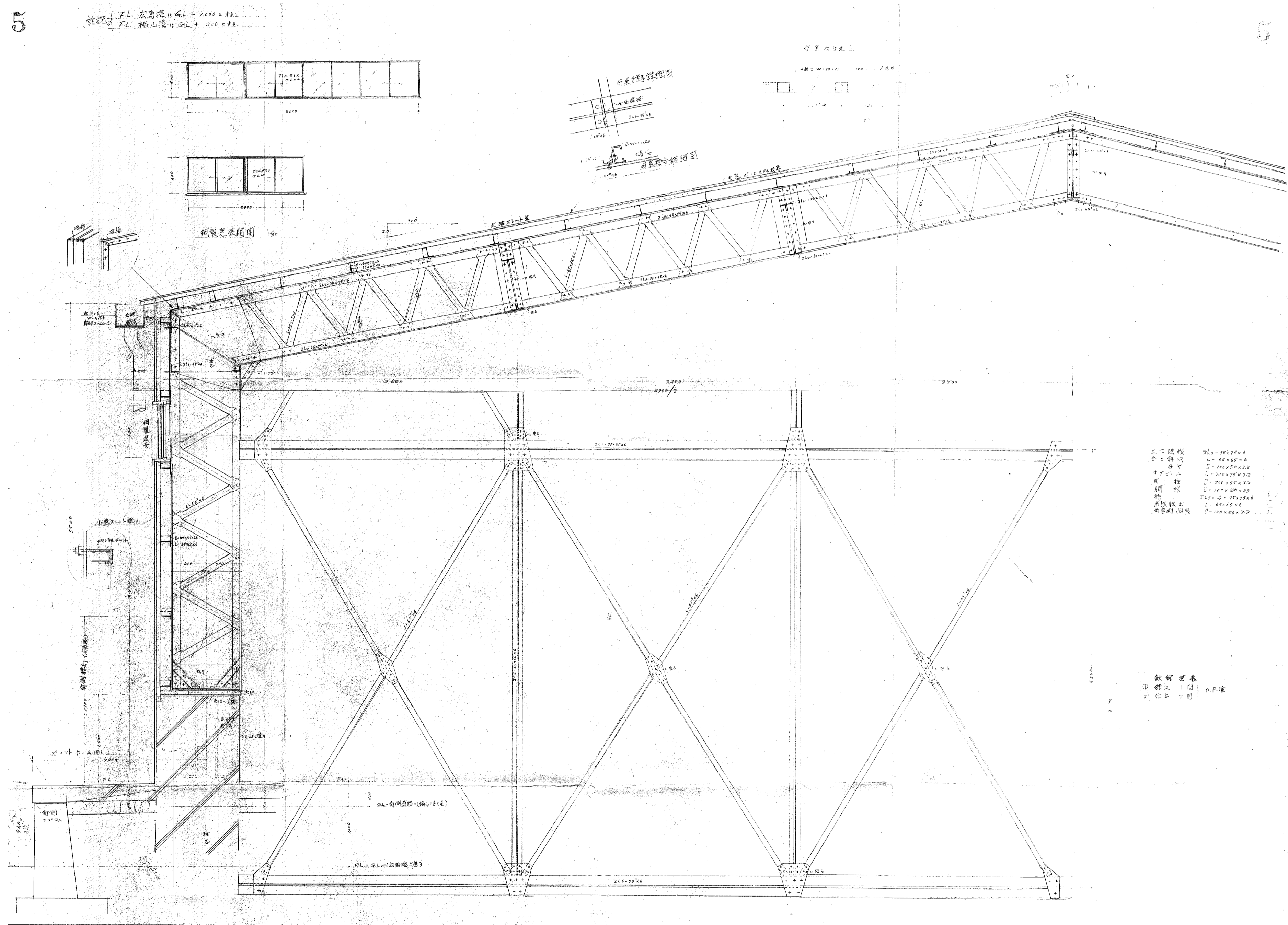
既存建具表 S=1/100

符号	片引きハンガードア	引違い4連窓	引違い2連窓
表図			
場所	倉庫	倉庫	倉庫
個数	6	6	4
見込	材種	70	70
材種	スチール	スチール	スチール
硝子	仕上	網入型板ガラス (7) 6.8	網入型板ガラス (7) 6.8
仕上	SOP塗り	SOP塗り	SOP塗り
金物	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式
備考			

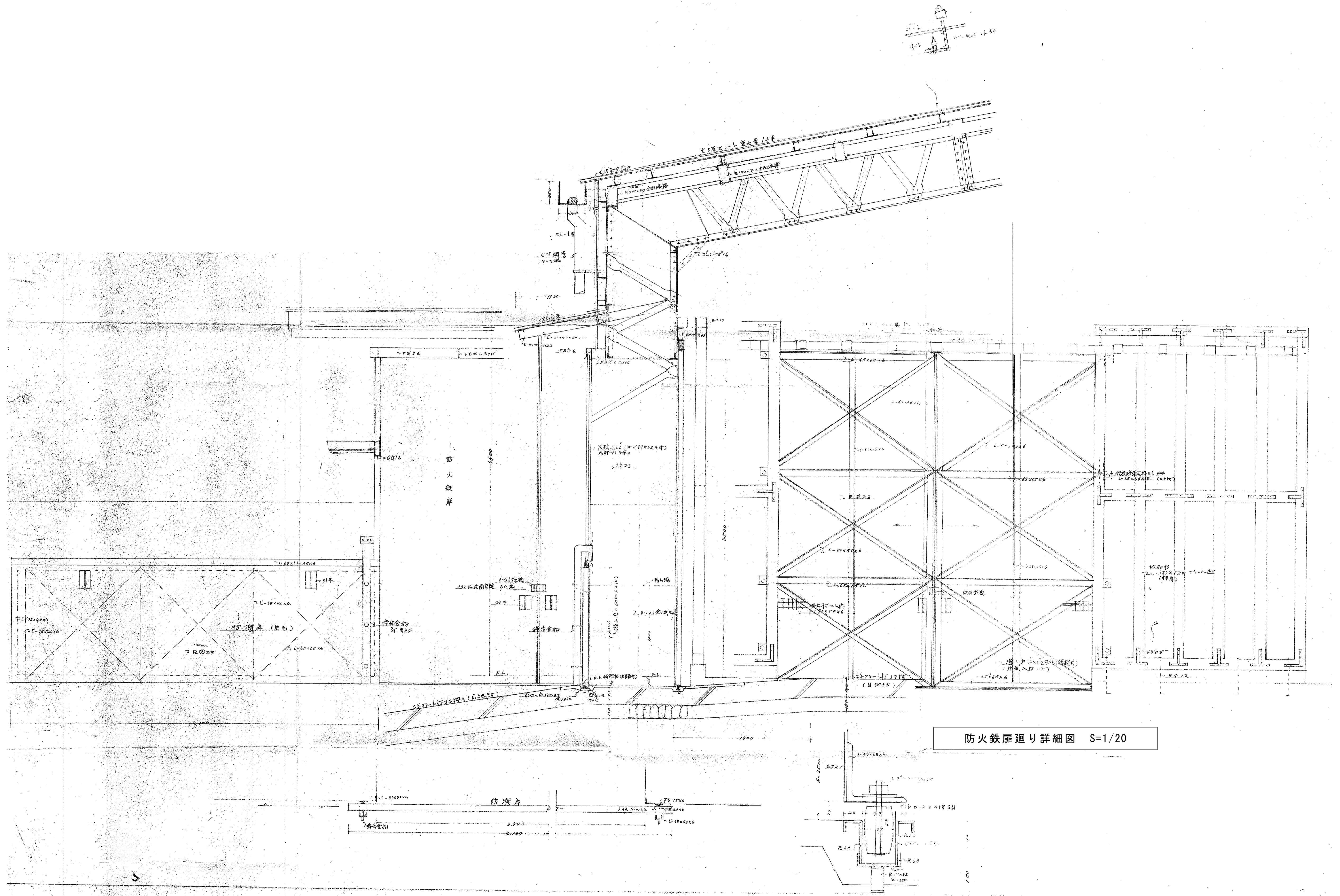
外部仕上表	
屋根	大波スレート張り (※アスベスト含有成形板として処分) ガラス繊維強化ポリエステル (7)1.2 (大波)
外壁	小波スレート張り (※アスベスト含有成形板として処分) ガラス繊維強化ポリエステル (7)1.0 (小波)
腰壁	モルタル刷毛引仕上
犬走	コンクリート金コテ押え (7)180
備考	軒樋: PL-1.6SOP張り 内部コータール塗り 縦樋: カラー硬質塩ビパイプ75φ GL+2,000 炭素鋼管101.4φ SOP塗り



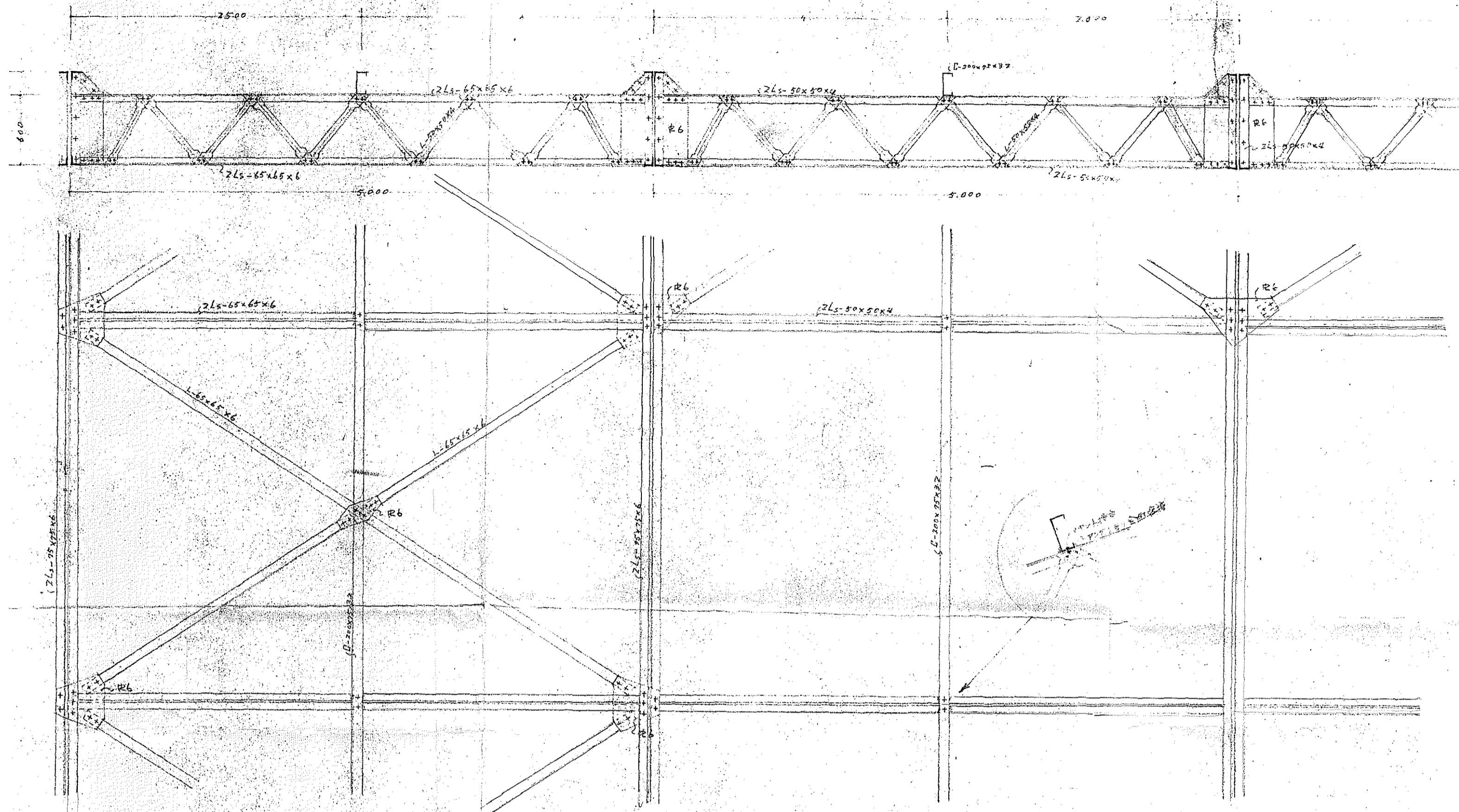
57



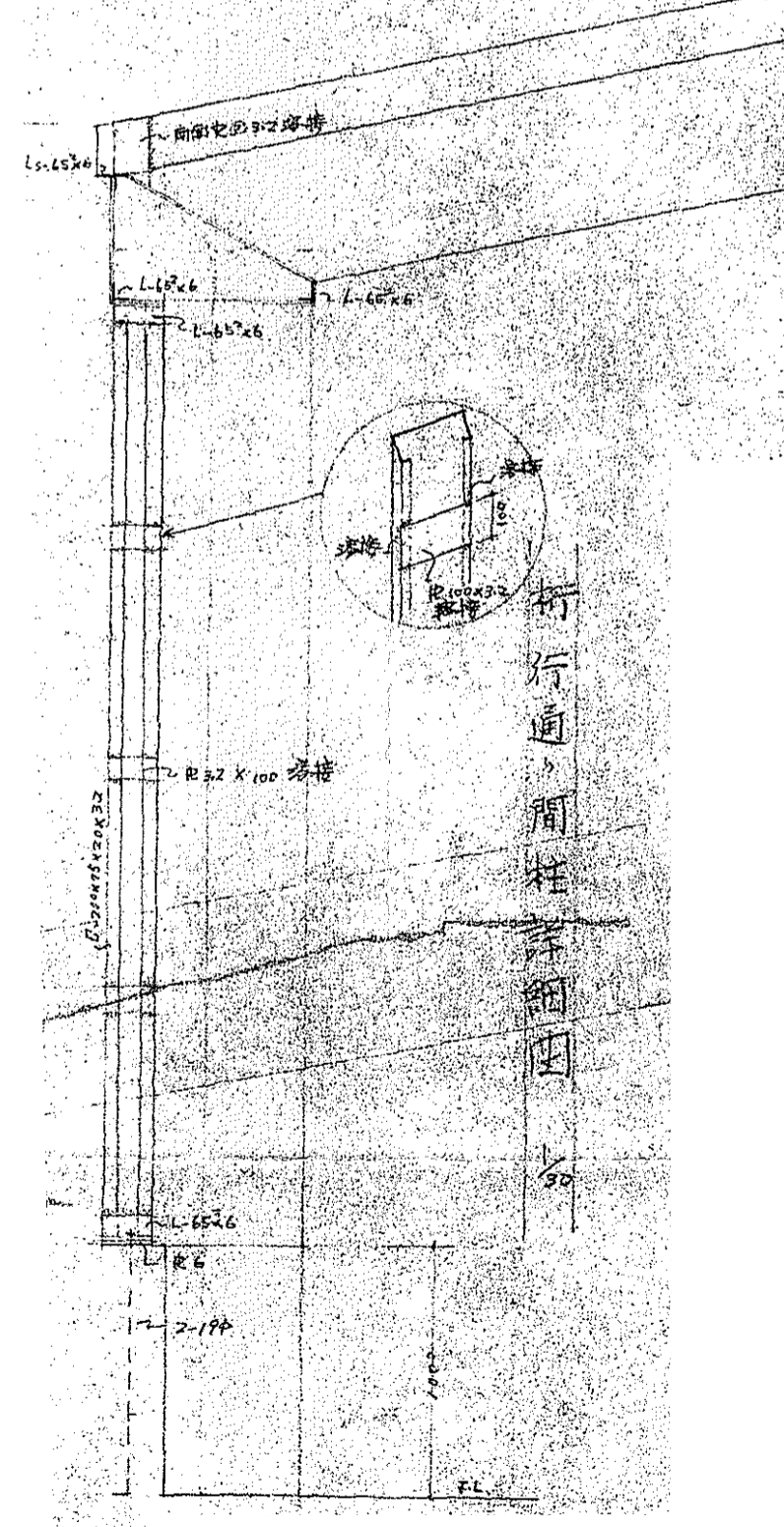
矩計圖 S=1/30



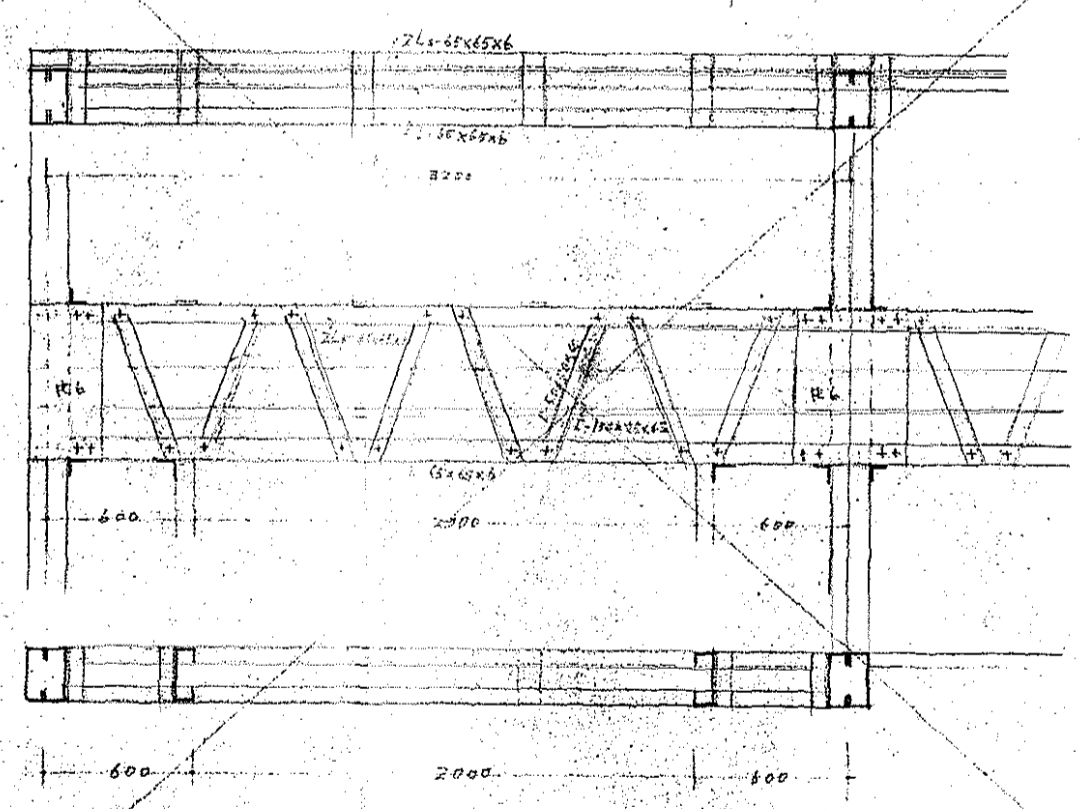
防火鉄扉廻り詳細図 S=1/20



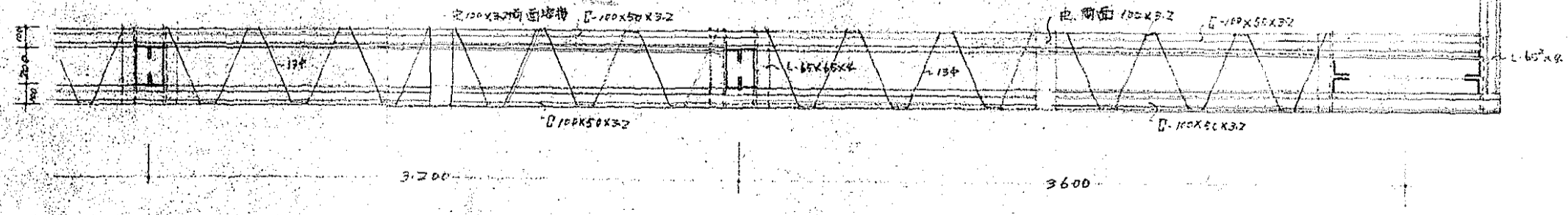
小屋桁行組方杖及び水平トラス詳細図 S=1/30



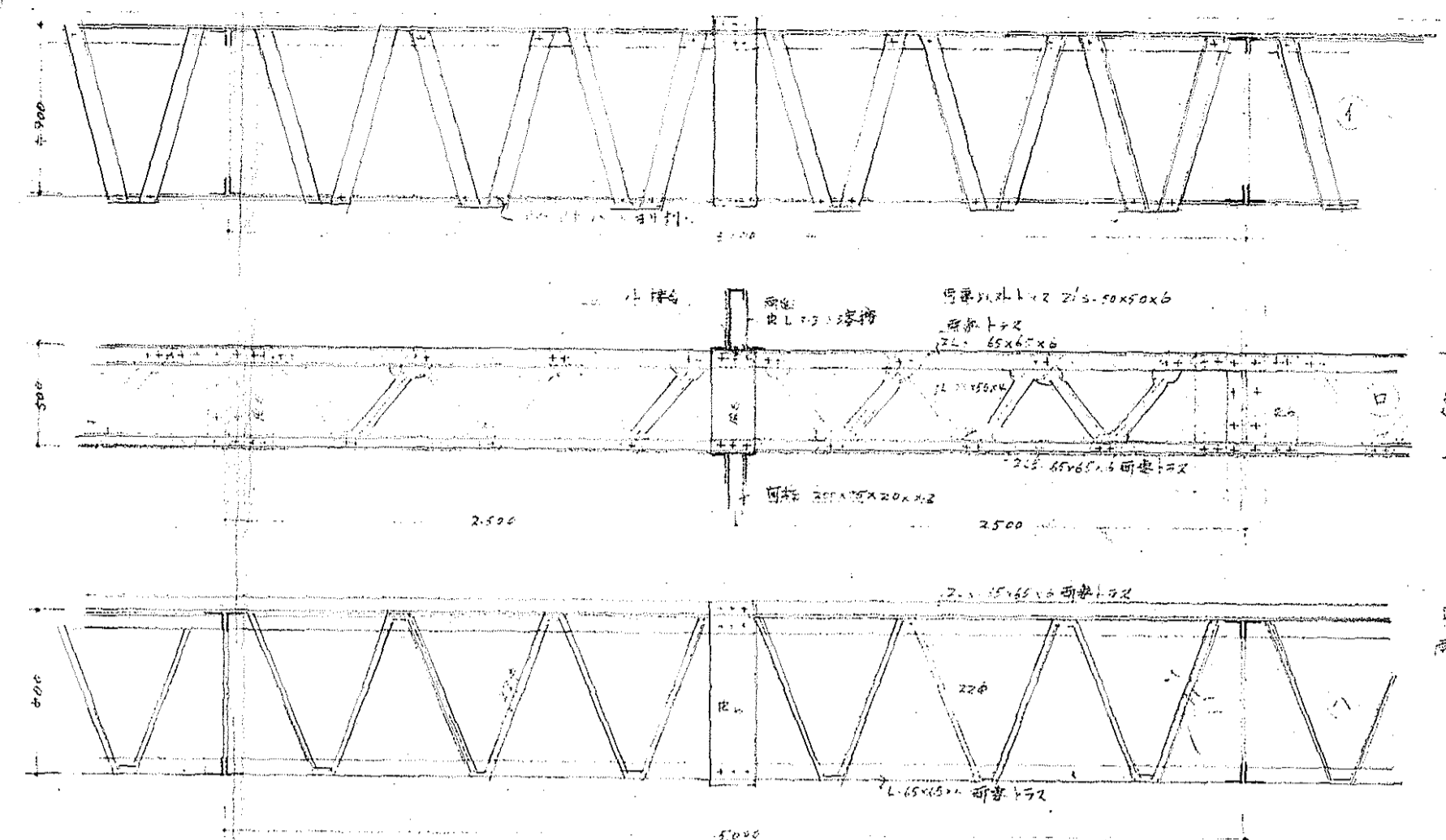
桁行通り間柱詳細図 S=1/30



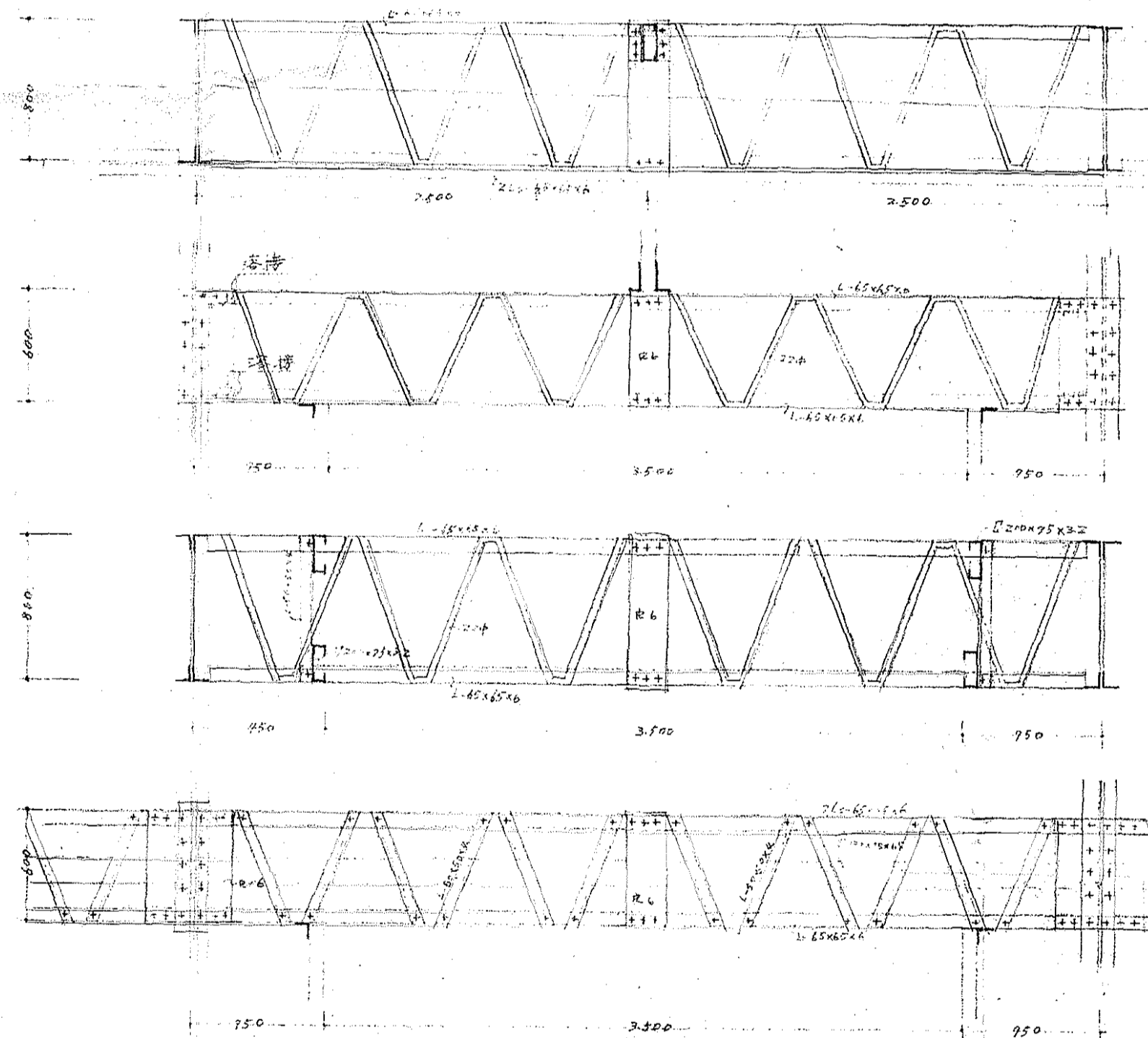
妻側出入口トラス詳細図 S=1/30



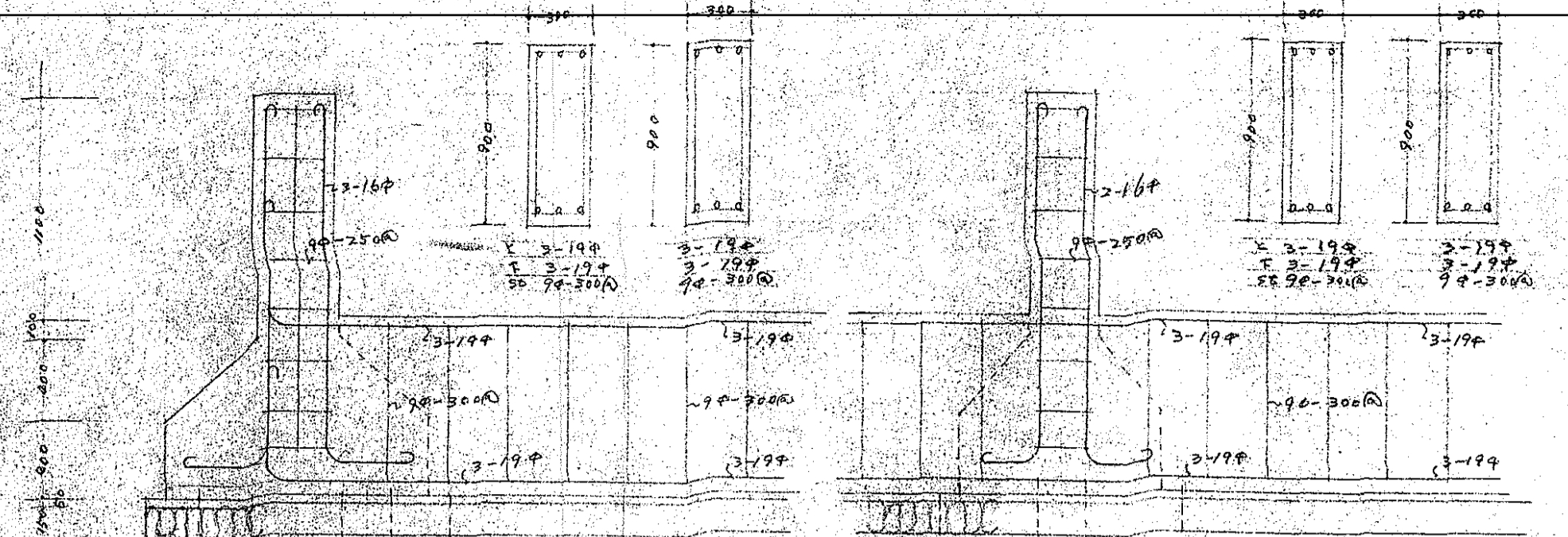
妻側間柱間水平トラス詳細図 S=1/30



桁行通り間柱水平トラス詳細図 S=1/30

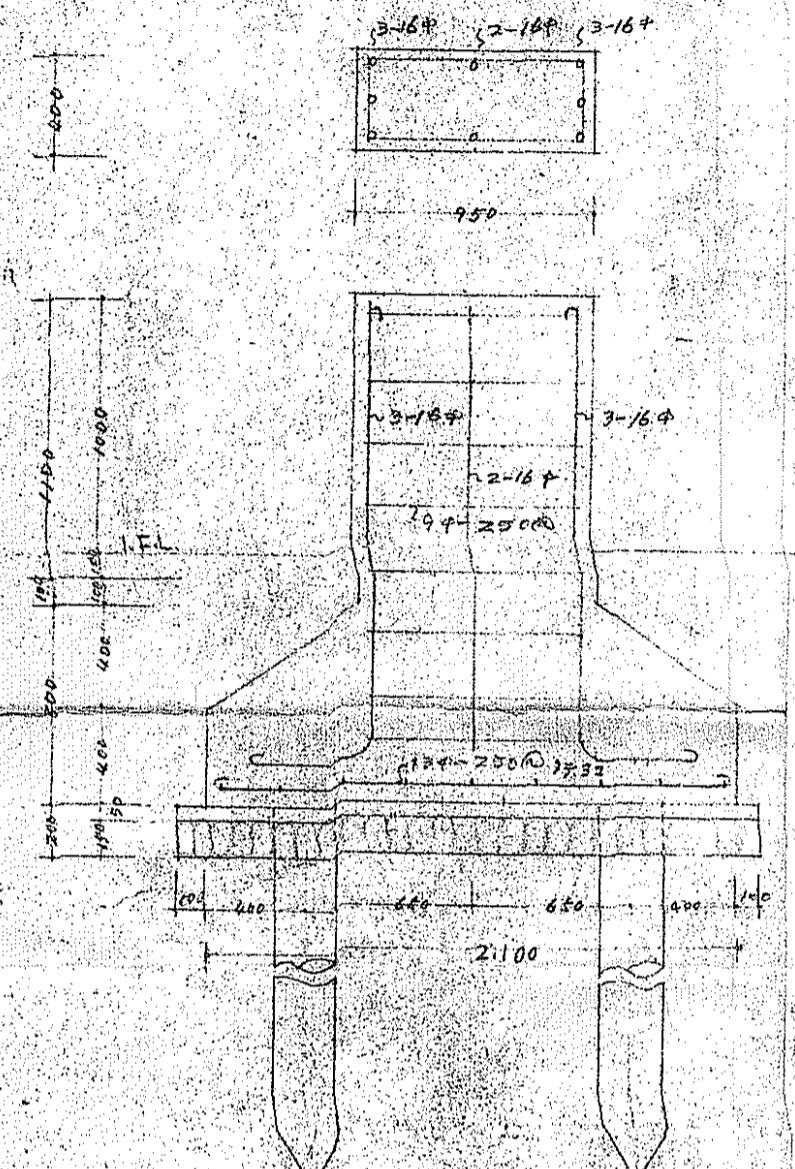


桁行出入口トラス詳細図 S=1/30

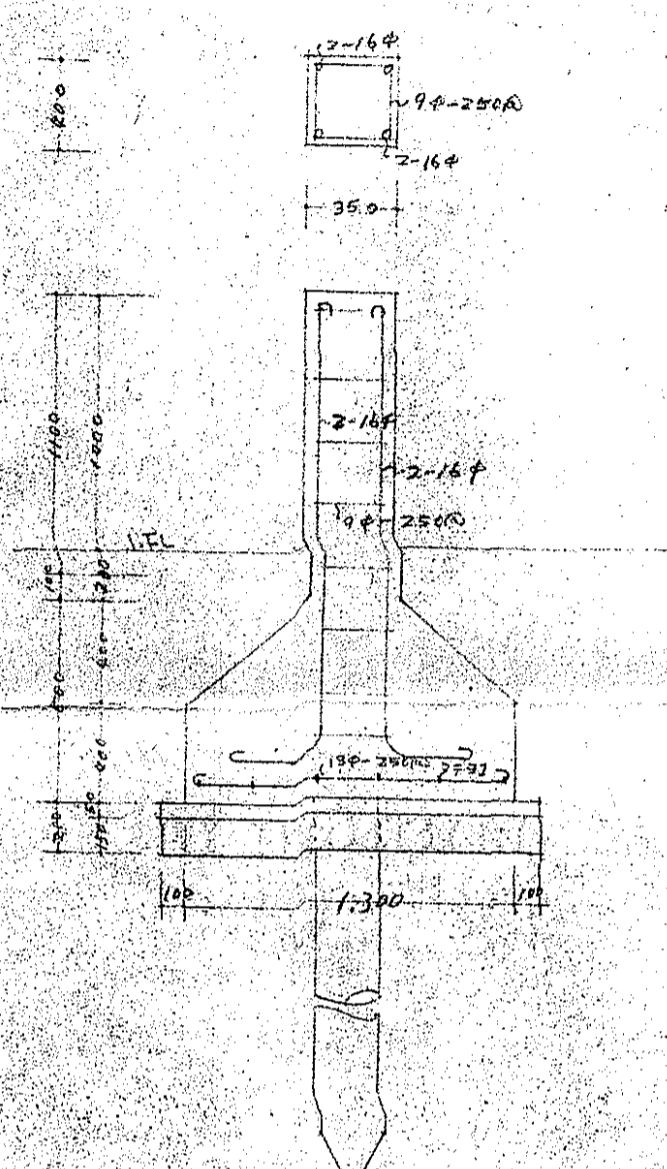


桁行通り地中梁配筋図 S=1/30

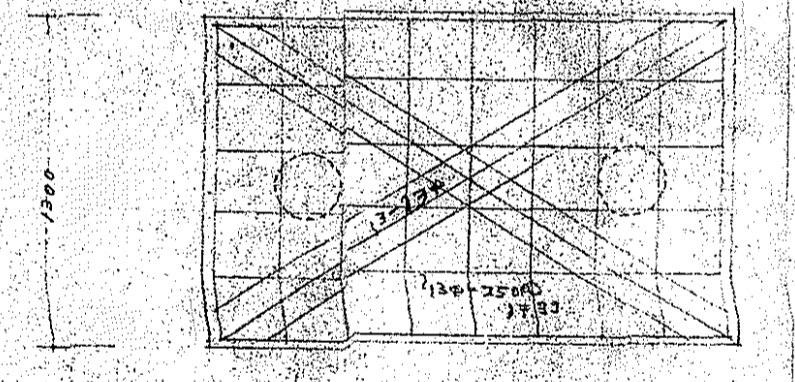
妻側地中梁配筋図 S=1/30



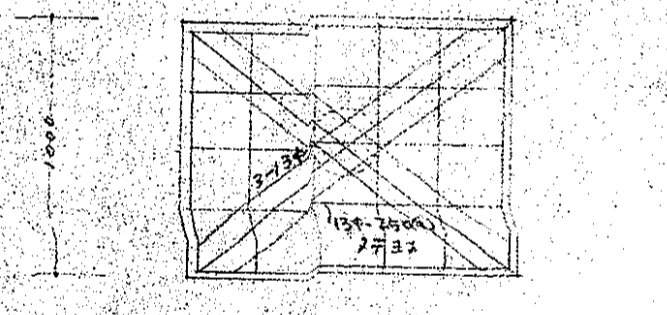
本柱基礎配筋図 S=1/30



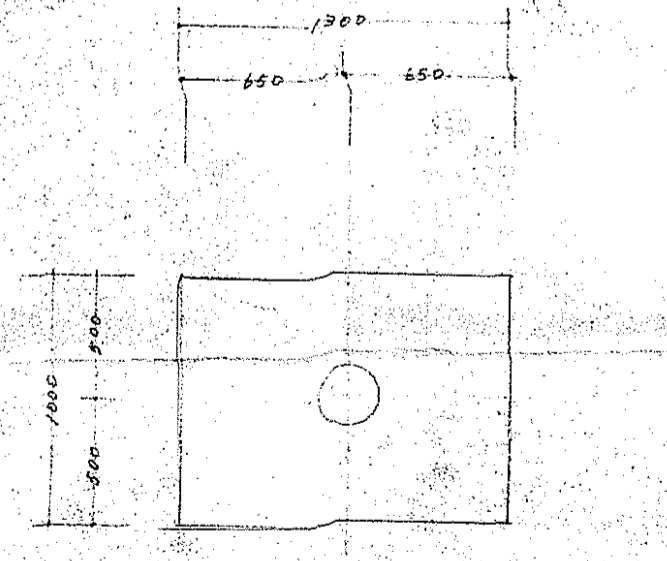
間柱基礎配筋図 S=1/30



本柱礎盤配筋図 S=1/30



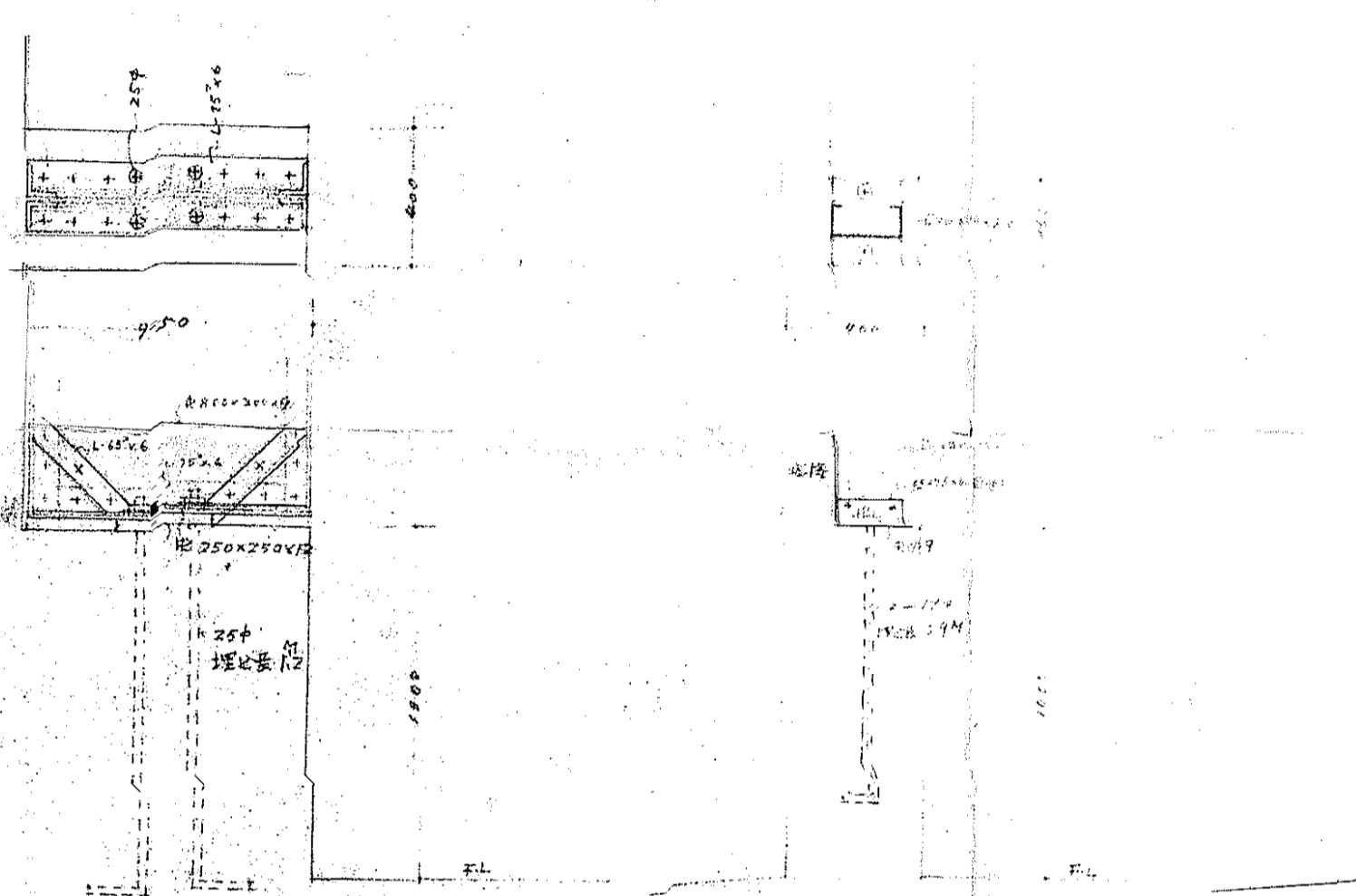
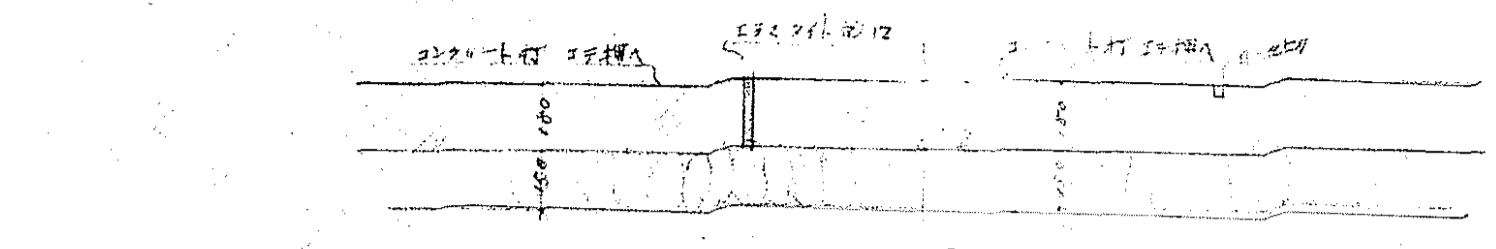
間柱礎盤配筋図 S=1/30



妻側間柱杭伏図 S=1/30

スラブ配筋表

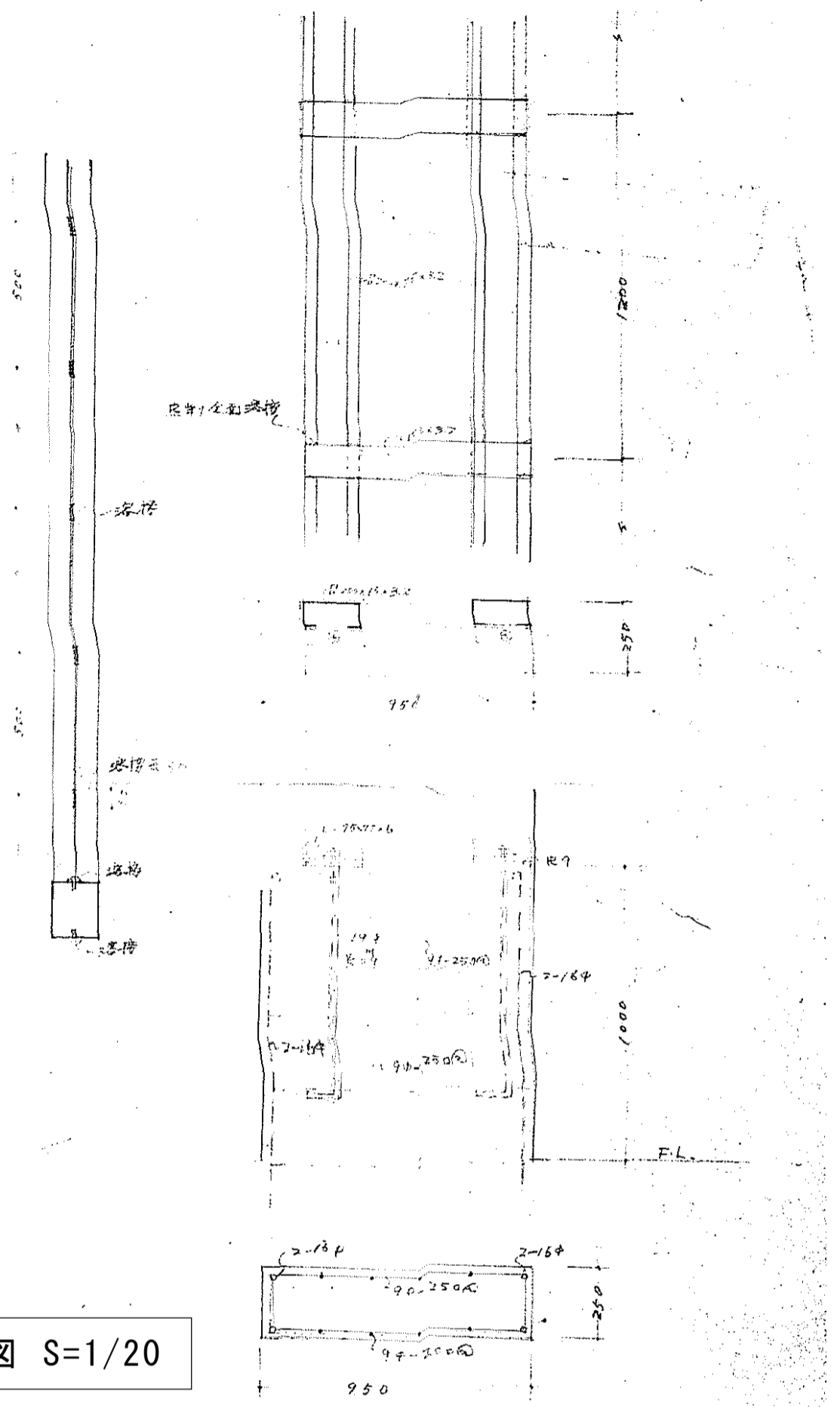
名称	厚	縦筋	横筋	備考
広島福山 倉庫 スラブ	180	13φ-200	13φ-200	斜交筋あり
広島福山 北側通路	180	13φ-200	13φ-200	斜交筋あり
広島福山 東側通路	180	9φ-200	9φ-200	斜交筋あり
広島福山 西側通路	180	9φ-200	9φ-200	斜交筋あり



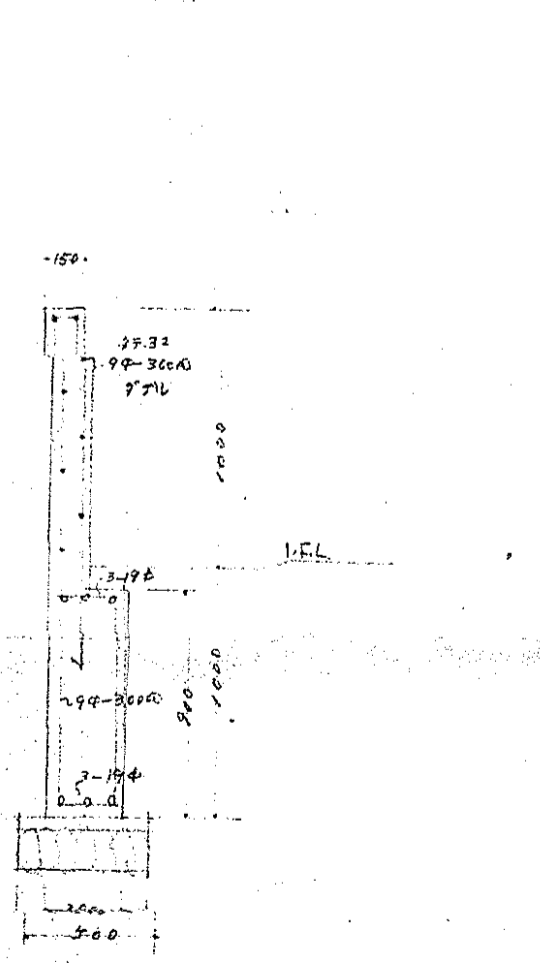
本柱柱脚部詳細図 S=1/20

間柱柱脚部詳細図 S=1/20

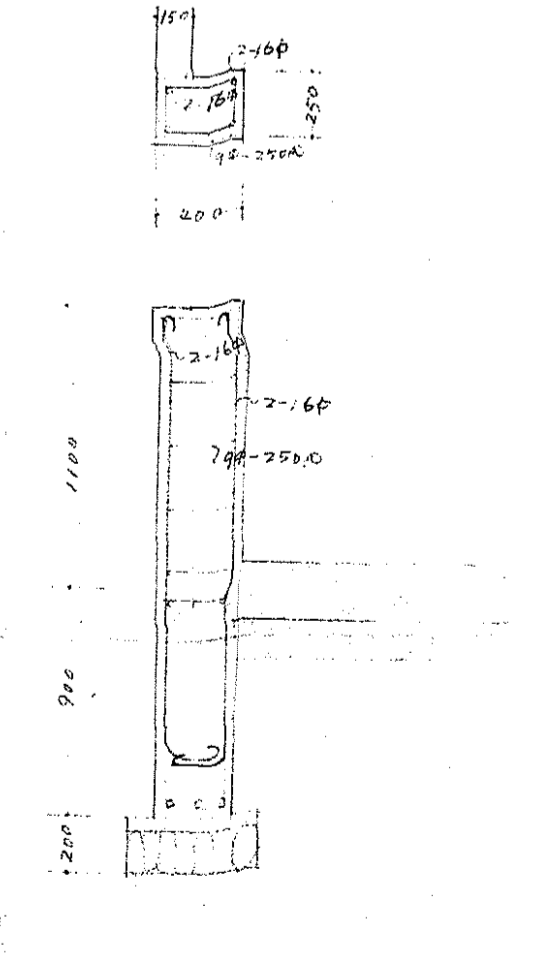
妻側間柱柱脚部詳細図 S=1/20



出入口間柱柱脚部詳細図 S=1/20



腰壁配筋図 S=1/30



間柱配筋図 S=1/30

【特記事項】  
 ・基礎の撤去は、1階土間から上のみとする（土間からは残置）  
 ・杭の撤去は行わない

# 参考数量書

§ 工事名称 福山港内港地区北倉庫解体工事

§ 工事場所 福山市東川口町一丁目地内

## 特記事項

- 1 この数量書は、福山市建設工事請負契約約款1条に定める「設計図書」ではなく参考数量です。従って、契約後の変更等を含意するものではありません。
- 2 数量の算出は次の基準によっています。

※ 「建築数量積算基準・同解説」 (建築工事建築数量積算研究会制定)

# 設 計 書

工事名称 福山港内港地区北倉庫解体工事

工事場所 福山市東川口町一丁目地内

## 【工事概要】

解体建物	構造・規模	延べ面積	1,256.40㎡（上屋のみ）
	鉄骨造平家建		



名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直 接 工 事 費	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		



名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
倉庫解体	1	式		
外構解体	1	式		
産業廃棄物処理費等	1	式		
計				

倉庫解体					
名 称	数 量	単 位	金 額	備 考	
直接仮設工事	1	式			
建物解体工事	1	式			
機器撤去	1	式			
計					

外構解体						
名	称	数	量	単位	金額	備考
外構解体		1		式		
	計					

産業廃棄物処理費等				
名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
産業廃棄物処理費	1	式		
計				

倉庫解体					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設工事		1	式		
計					
建物解体工事		1	式		
計					
機器撤去		1	式		
計					

外構解体					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
外構解体		1	式		
計					



産業廃棄物処理費等					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
産業廃棄物処理費		1	式		
計					

倉庫解体		直接仮設工事				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 掛払い手間 12m未満 - -	885	㎡			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 供用30日賃料 修理費含む 12m未満 - -	885	㎡			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 基本料 修理費含む 12m未満 - -	885	㎡			
仮設材運搬 (枠組本足場) (手すり先行方式)	建枠幅900(二枚布)	885	㎡			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 600×1700 布枠500×1枚 掛払い手間 12m未満 - -	175	㎡			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 600×1700 布枠500×1枚 供用30日賃料 修理費含む 12m未満 - -	175	㎡			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 600×1700 布枠500×1枚 基本料 修理費含む 12m未満 - -	175	㎡			
仮設材運搬 (枠組本足場) (手すり先行方式)	建枠幅600	175	㎡			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 掛払い手間 -	170	m			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 供用30日賃料 修理費含む -	170	m			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 基本料 修理費含む -	170	m			
仮設材運搬 (安全てすり)	枠組本足場用(手すり先行方式)	170	m			
養生シート張り	防災Ⅰ類 掛払い手間 - -	1,060	㎡			
養生シート張り	防災Ⅰ類 供用30日賃料 修理費含む - -	1,060	㎡			
養生シート張り	防災Ⅰ類 基本料 修理費含む - -	1,060	㎡			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		1,060	㎡			
高所作業車 (トラック架装リフト)	幅広デッキタイプ 作業床高さ8~9.9m ホベレータ付き	24	日			
高所作業車 (ホイール・伸縮型))	作業床高6m 2台/日×24日 ホベレータ付き	48	日			
ラフテレンクレーン運転 (油圧伸縮ジブ型)	50t吊り ホベレータ付き 賃料 標準	18	日			
落下制止用器具	フルハーネス型	1	式			

倉庫解体		直接仮設工事				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
計						

倉庫解体		建物体解体工事				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
上屋解体	S造 溶断主体 手ばらし 屋根・外壁共 発生材積込共	1,263	m <sup>2</sup>			
躯体コンクリート解体 (土間から上)	圧砕機主体・ハッドプレート併用 ガラ積込まで	31.4	m <sup>3</sup>			
アスベスト含有建材撤去	石綿スレート 屋根 手ばらし 集積, 積込み共	1,230	m <sup>2</sup>			
アスベスト含有建材撤去	石綿スレート 外壁 手ばらし 集積, 積込み共	646	m <sup>2</sup>			
建設発生材運搬	コンクリート(有筋)	31.4	m <sup>3</sup>			
建設発生材運搬	木くず(建築解体材)	6.5	m <sup>3</sup>			
建設発生材運搬	ガラスくず	0.5	t			
建設発生材運搬	廃プラ	0.1	t			
建設発生材運搬	鉄くず	65	t			
建設発生材運搬	アスベスト含有スレート	33	t			
計						

倉庫解体		機器撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
照明器具撤去	蛍光灯FL32Wx2灯 程度	60	台			
照明器具撤去	ブラケット20W×1灯 程度	12	台			
消火栓撤去		3	台			
建設廃材運搬	一般	0.3	t			
建設廃材運搬	蛍光管・電球	0.03	t			
計						

外構解体		外構解体				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
カッター縁切り	スロープ 端部 立上り共	21	m			
アスファルト舗装撤去	遊歩道舗装 厚50 積込共	164	m <sup>2</sup>			
コンクリート擁壁撤去	スロープ 擁壁 (厚150), 水門控壁 現場均し・ガラ積込共	10	m <sup>3</sup>			
電柱撤去	構内引込柱 (木柱) H=8m程度 積込共	2	本			
鋼製グレーチング撤去	積込共	7	m			
整地	スロープ 撤去跡 砕石厚10cm程度	164	m <sup>2</sup>			
建設発生材運搬	コンクリート(有筋)	10	m <sup>3</sup>			
建設発生材運搬	アスファルト	8.2	m <sup>3</sup>			
建設発生材運搬	木くず(建築解体材)	1	m <sup>3</sup>			
建設発生材運搬	鉄くず	0.5	t			
計						

産業廃棄物処理費等		産業廃棄物処理費				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
建設廃材処理費	コンクリート(有筋)	41.4	m3			
建設廃材処理費	アスファルト	8.2	m3			
建設廃材処理費	木くず(建築解体材)	7.5	m3			
建設廃材処理費	廃プラ	0.1	t			
建設廃材処理費	ガラスくず	0.5	t			
建設廃材処理費	一般	0.3	t			
建設廃材処理費	蛍光管, 電球	0.03	t			
建設廃材処理費	アスベスト含有スレート	33	t			
有価材処分費 鉄くず*	H3	25.7	t			
有価処分費 鉄くず*	H2	39.7	t			
計						

名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
(建物他解体)						
仮囲い	供用3か月 仮囲鉄板 H=3.0m	196	m			
キャスターゲート	巾6.0x 高1.8m 片開き 供用3か月	1	か所			
交通誘導員	交通誘導警備員B	48	人			
保護具消耗品	マスク・ゴーグル等	1	式			
石綿作業主任者		1	式			
騒音・振動計	騒音・振動表示装置(参:EBH2-SSE) 基本料、ソフト、補償料、持込料、 引取料共 賃料 2.5ヶ月	1	か所			
(解体後仮設)						
A型ハリケート	単管 φ48.6 L=2.0m×2段 スナット1組共	19	台			
トラロープ 1段張り	敷地周囲 スロープ 出入口共	174	m			
計						